

(2) 認知症施策についてのアンケート結果

1 使用した調査用紙

神奈川県認知症施策についてのアンケート調査

2 調査期間 令和 5 (2023) 年 9 月 1 日～令和 5 (2023) 年 12 月 28 日

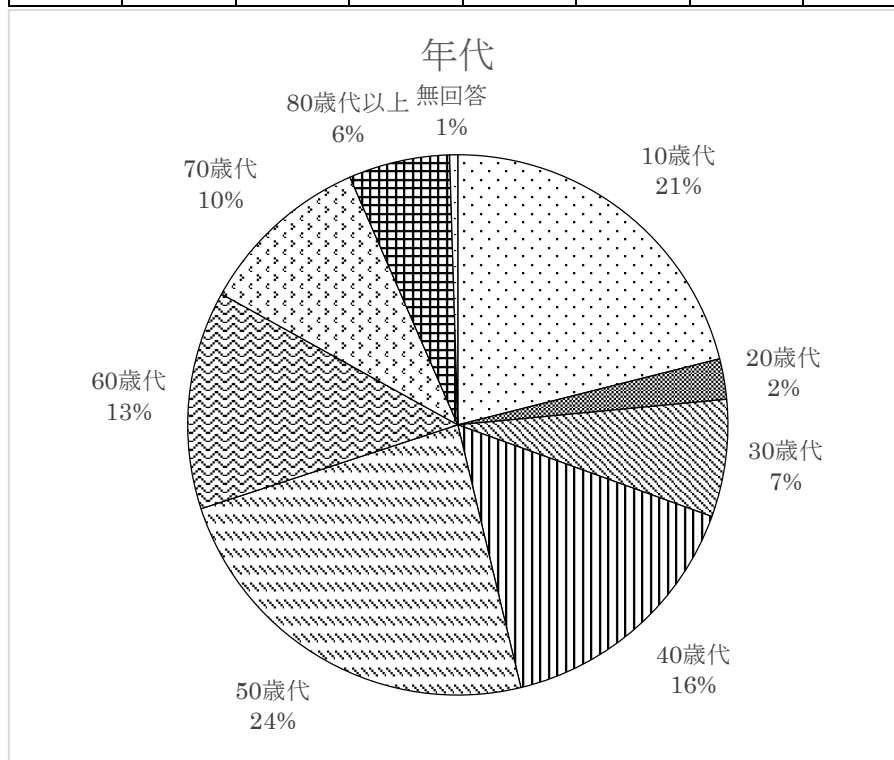
3 回収数 413

4 結果

1 アンケートにお答えのご本人についてお答えください

(1) 年代

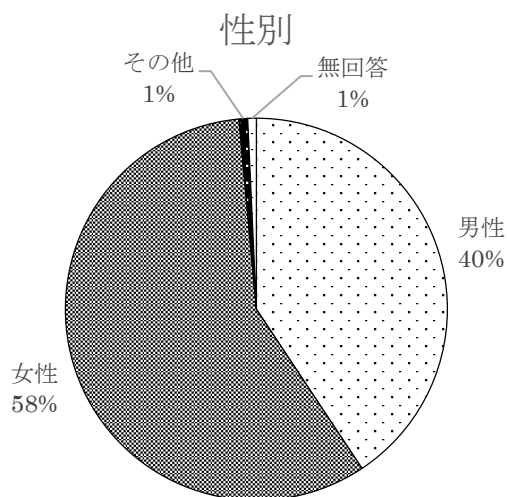
10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代以上	無回答
87	10	29	65	98	54	43	25	2



回答者は代
20代～50代
で 5 割を占
め、また 10
代～80 代以
上まで回答
があった。

(2)性別

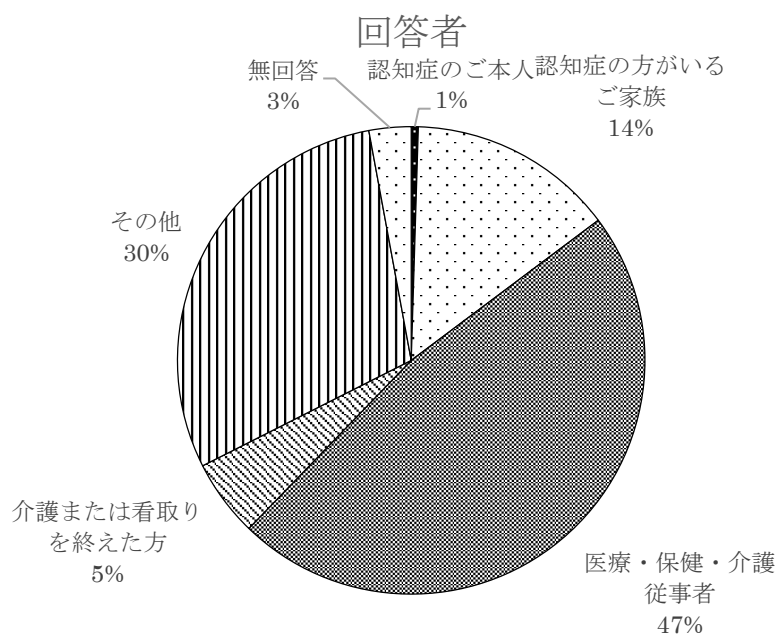
男性	女性	その他	無回答
168	239	3	3



回答者は、男性
4割、女性約6
割であった。

(3)回答者の状況をお答えください。(複数回答)

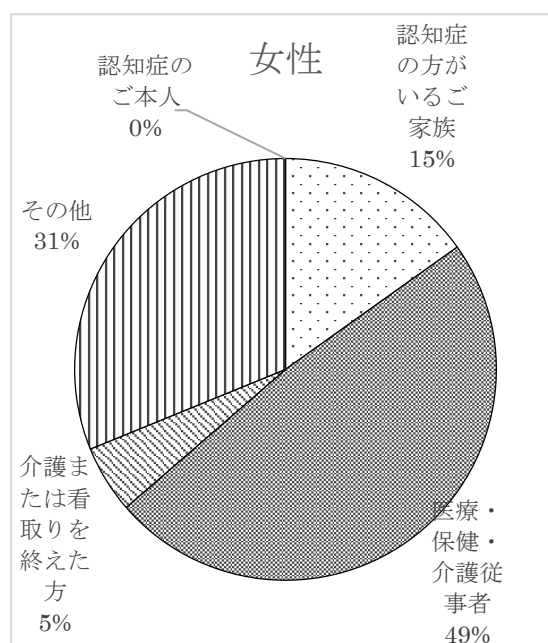
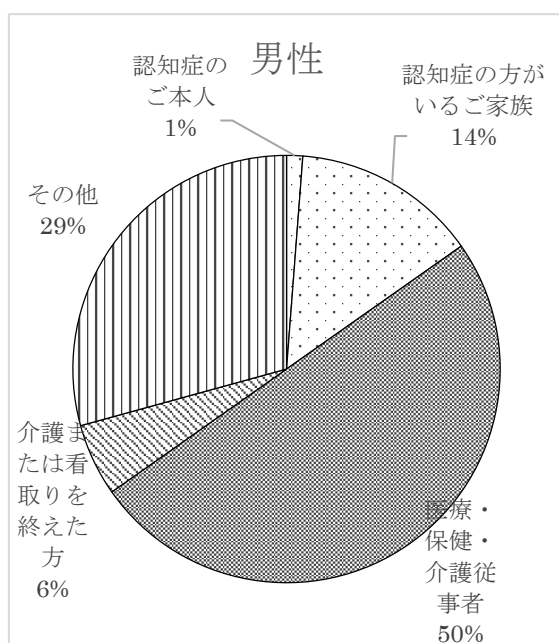
認知症のご本人	認知症の方が いるご家族	医療・保健・介護 従事者	介護または看取 りを終えた方	その他	無回答
2	59	196	22	122	12



男女・年代回答者の状況別

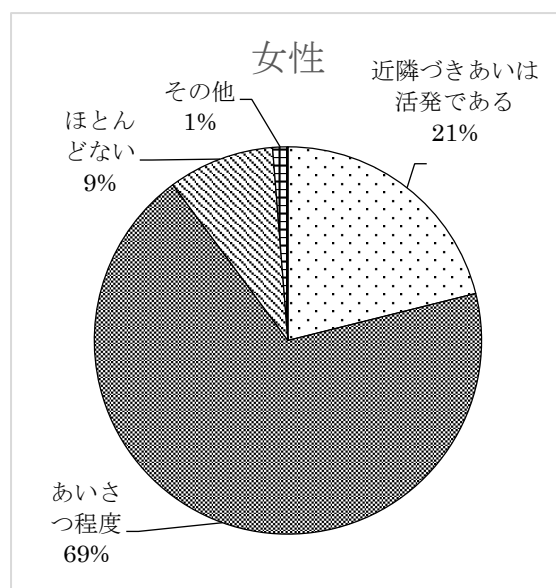
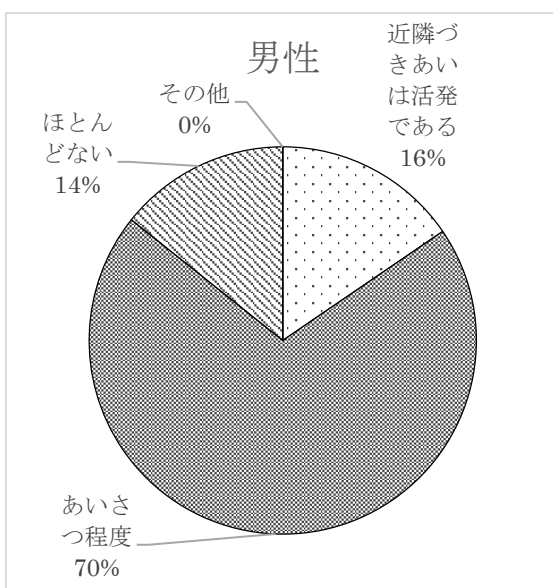
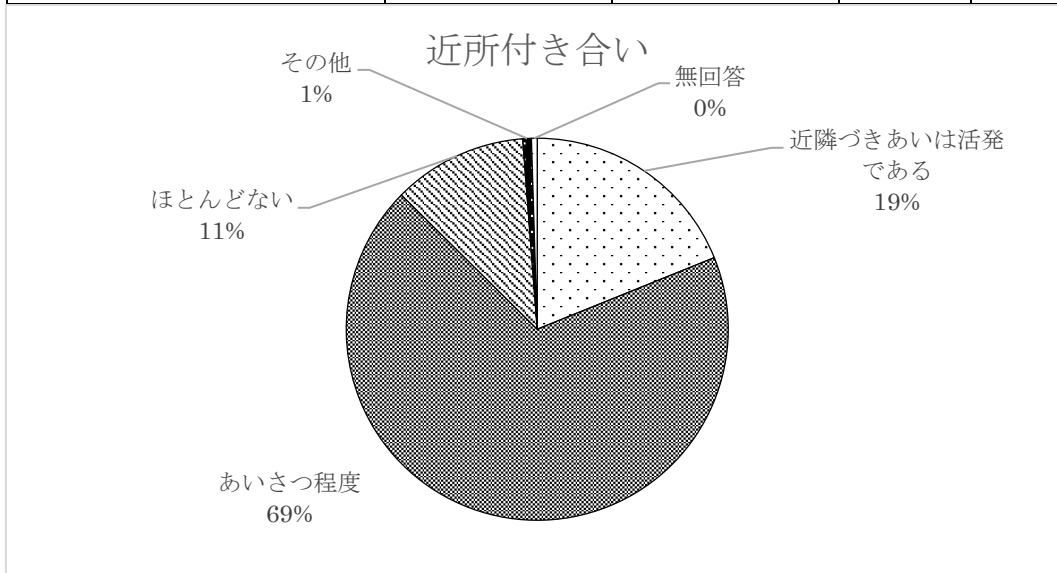
		認知症の ご本人	認知症の 方がいる ご家族	医療・保 健・介護従 事者	介護また は看取りを 終えた方	その他
男性	10代	0	5	2	3	20
	20代	0	0	3	0	3
	30代	0	1	9	0	5
	40代	1	1	26	0	3
	50代	0	6	23	1	5
	60代	0	2	14	2	1
	70代	1	4	4	2	8
	80代以上	0	4	1	1	3
		2	23	82	9	48
女性	10代	0	3	0	1	46
	20代	0	0	4	0	0
	30代	0	1	11	0	2
	40代	0	3	26	1	3
	50代	0	11	41	2	7
	60代	0	9	18	4	4
	70代	0	1	10	4	7
	80代以上	0	7	2	0	3
		0	35	112	12	72

家族 14%、医療・保健・介護従事者が約5割であった。介護または看取りを終えた方からの回答も5%あった。10代の認知症の方がいるご家族の方、介護また看取りを終えた方からの回答もあった。



(4) あなたの近隣づきあいはいかがですか

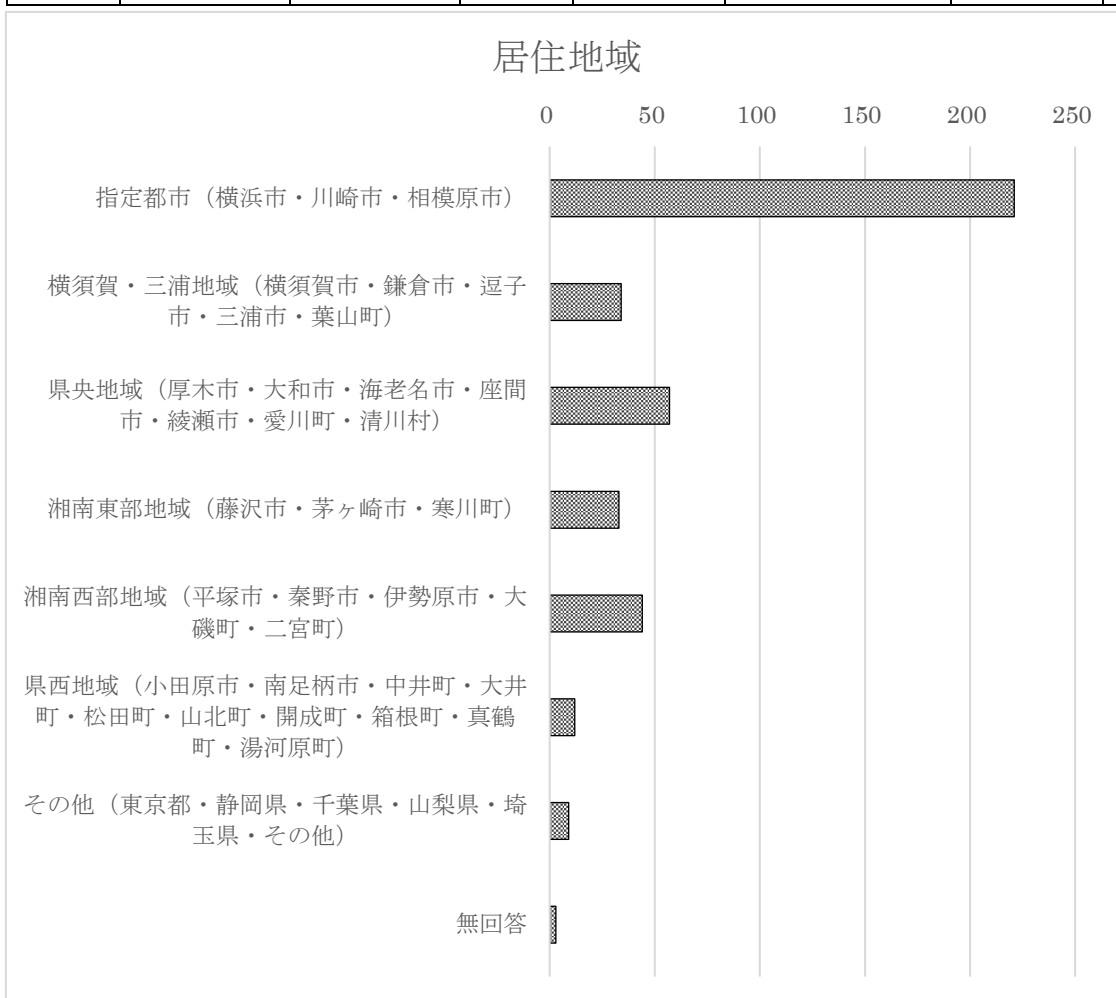
近隣づきあいは活発である	あいさつ程度	ほとんどない	その他	無回答
78	283	47	3	2



近所づきあいは約7割が挨拶程度であり、活発である約2割含めると、約9割が近所づきあいはあるが、一方「ほとんどない」が約1割であった。

(5) お住まいの住所地域についてお答えください。

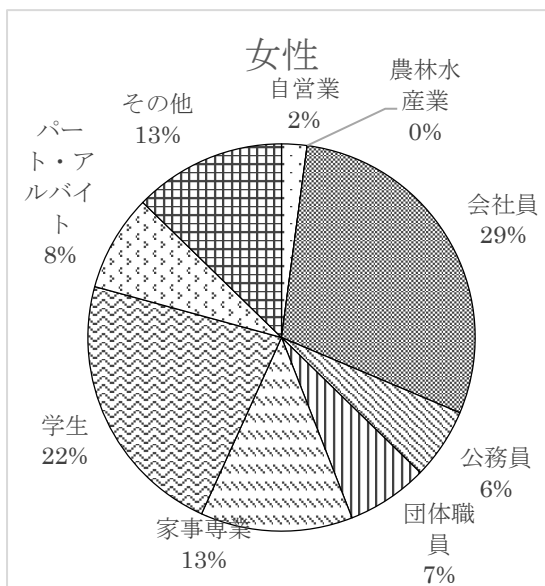
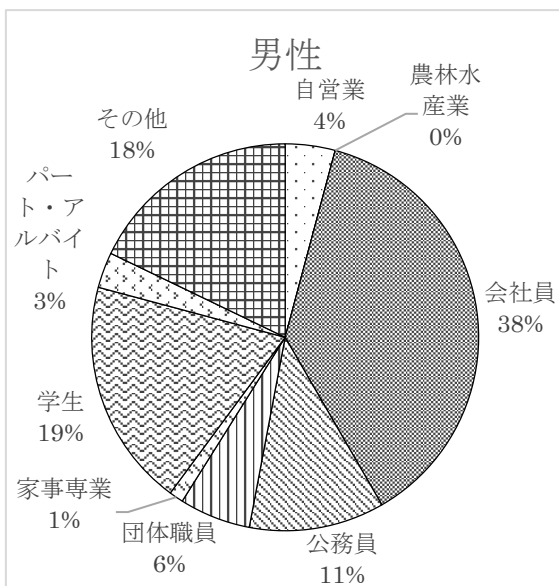
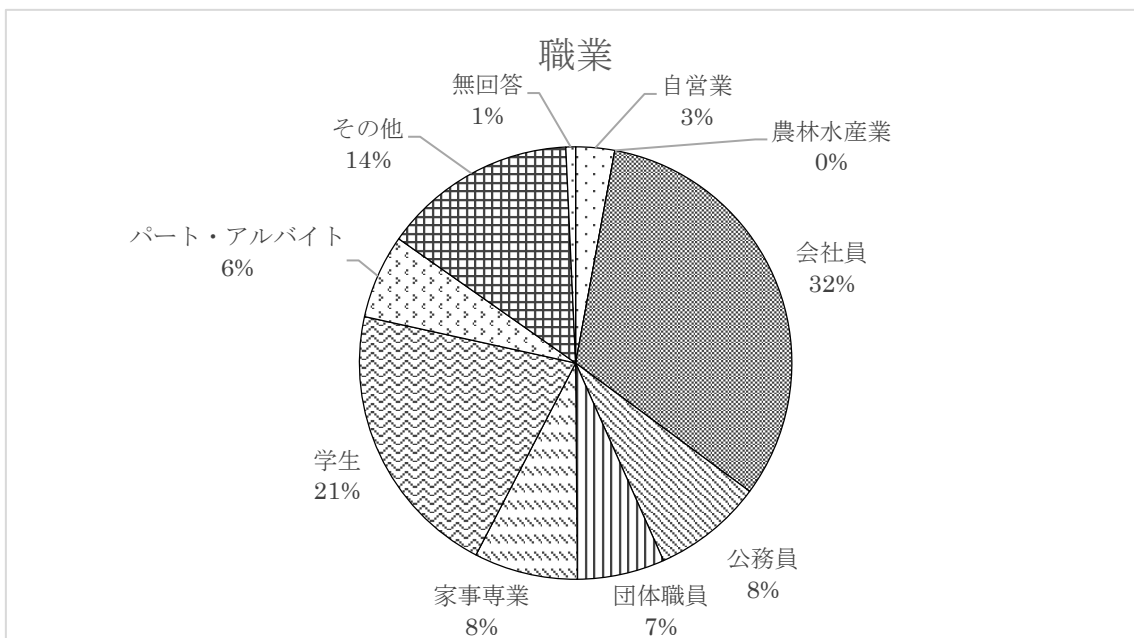
指定都市（横浜市・川崎市・相模原市）	横須賀・三浦地域（横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町）	県央地域（厚木市・大和市・海老名市・座間市・綾瀬市・愛川町・清川村）	湘南東部地域（藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町）	湘南西部地域（平塚市・秦野市・伊勢原市・大磯町・二宮町）	県西地域（小田原市・南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町・箱根町・真鶴町・湯河原町）	その他（東京都・静岡県・千葉県・山梨県・埼玉県・その他）	無回答
221	34	57	33	44	12	9	3



政令指定都市が多いが、県内全エリアから回答を得た。

(6) あなたの職業についてお答えください。

自営業	農林水産業	会社員	公務員	団体職員	家事専業	学生	パート・アルバイト	その他	無回答
12	0	133	34	27	32	86	26	60	3

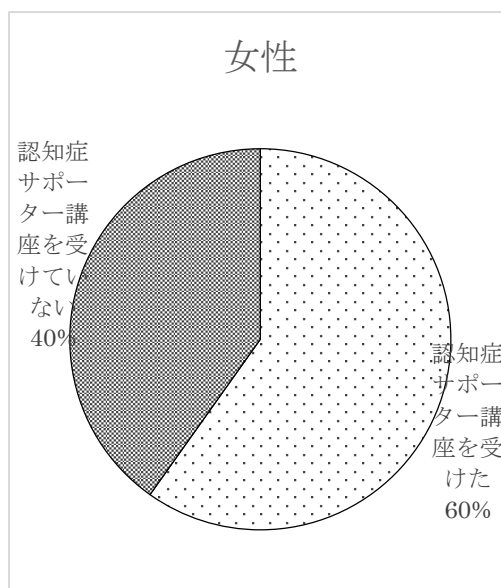
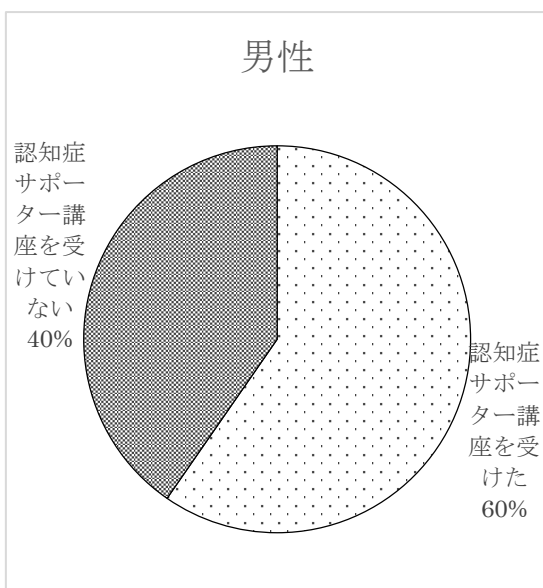
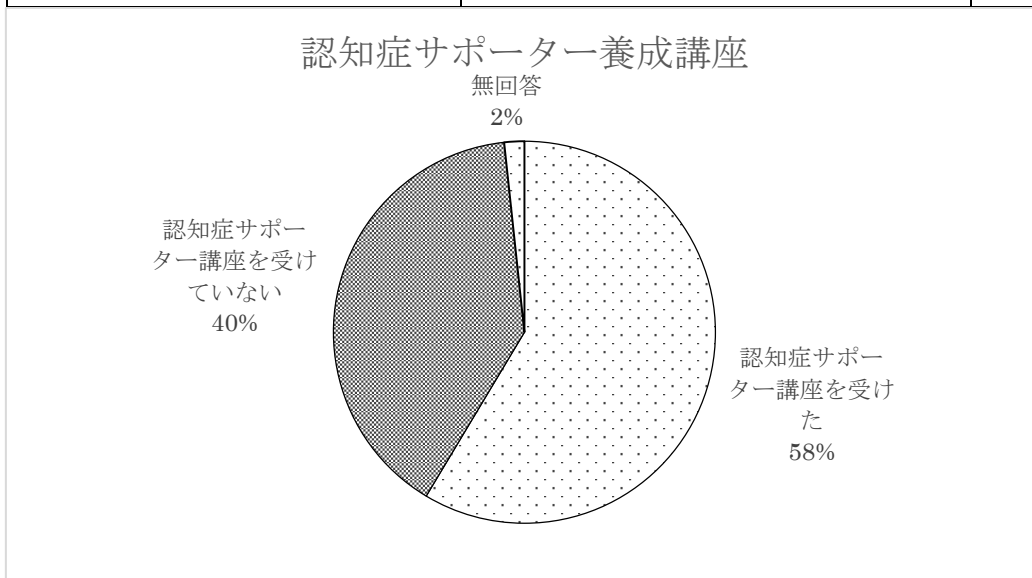


職業は、「会社員」が 32%で最多であり、次に学生が 21%の順で多かった。
男女別では、男女とも会社員が最多であり、次に「学生」の順で多かった。

2 認知症についてお答えください

(1) あなたは、認知症サポーター(*1)の講座を受けたことがありますか。

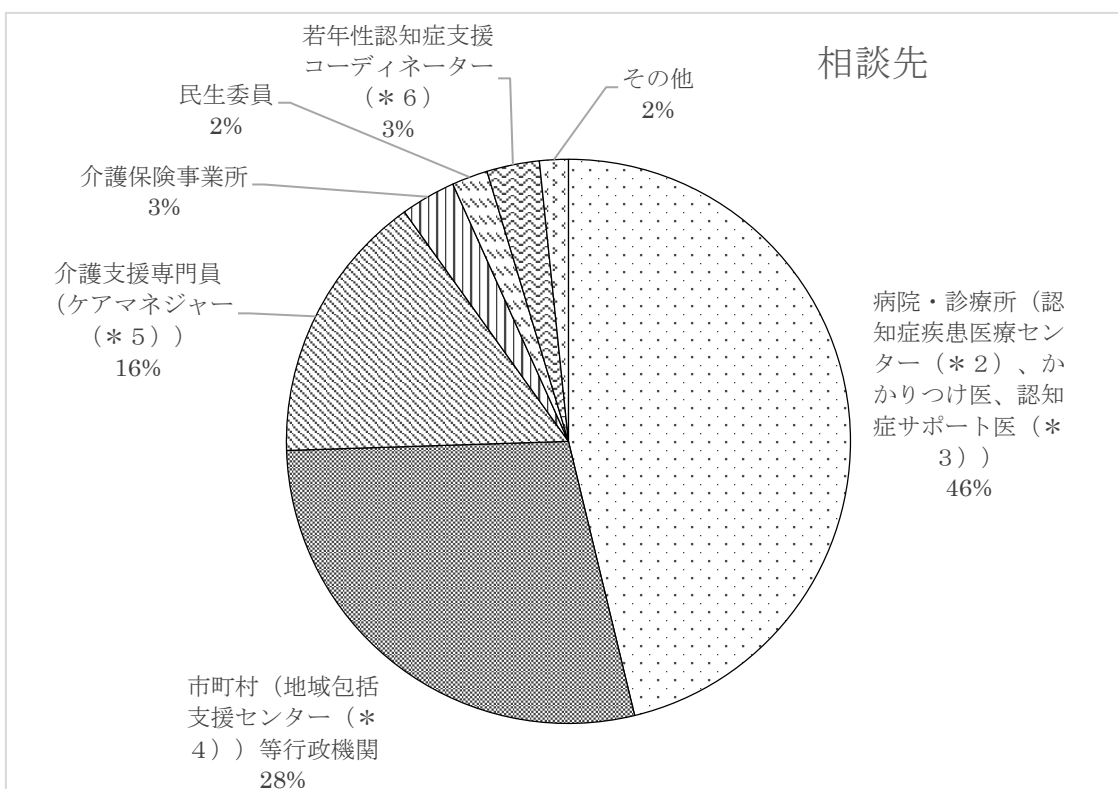
認知症サポーター講座を受けた	認知症サポーター講座を受けていない	無回答
242	164	7



認知症サポーター養成講座の受講の有の回答した方は、約 58%であった。

(2) あなた自身、もしくは家族等に認知症の疑いがある時、どこへ相談しますか。または相談されましたか。(複数回答)

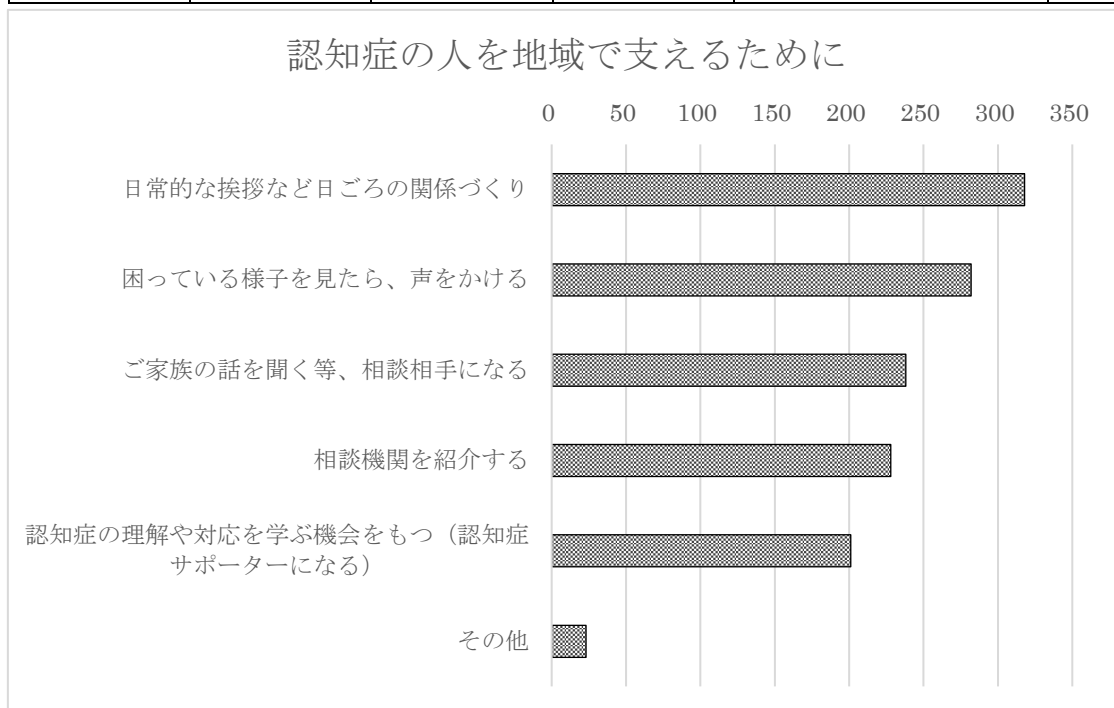
病院・診療所(認知症疾患医療センター(*2)、かかりつけ医、認知症サポート医(*3))	市町村(地域包括支援センター(*4))等行政機関	介護支援専門員(ケアマネジャー(*5))	介護保険事業所	民生委員	若年性認知症支援コーディネーター	その他
237	206	114	23	15	22	12



相談先として、病院・診療所、認知症疾患医療センターを選んだものは全回答数のうち 46%と、市町村(地域包括センター)と答えたものは全回答数のうち 28%となった。

(3) 認知症の人と家族を地域で支えるためどんなことが必要だと思いますか。(複数回答)

日常的な挨拶など日ごろの関係づくり	困っている様子を見たら、声をかける	ご家族の話を聞く等、相談相手になる	相談機関を紹介する	認知症の理解や対応を学ぶ機会をもつ(認知症サポーターになる)	その他
318	282	238	228	201	23



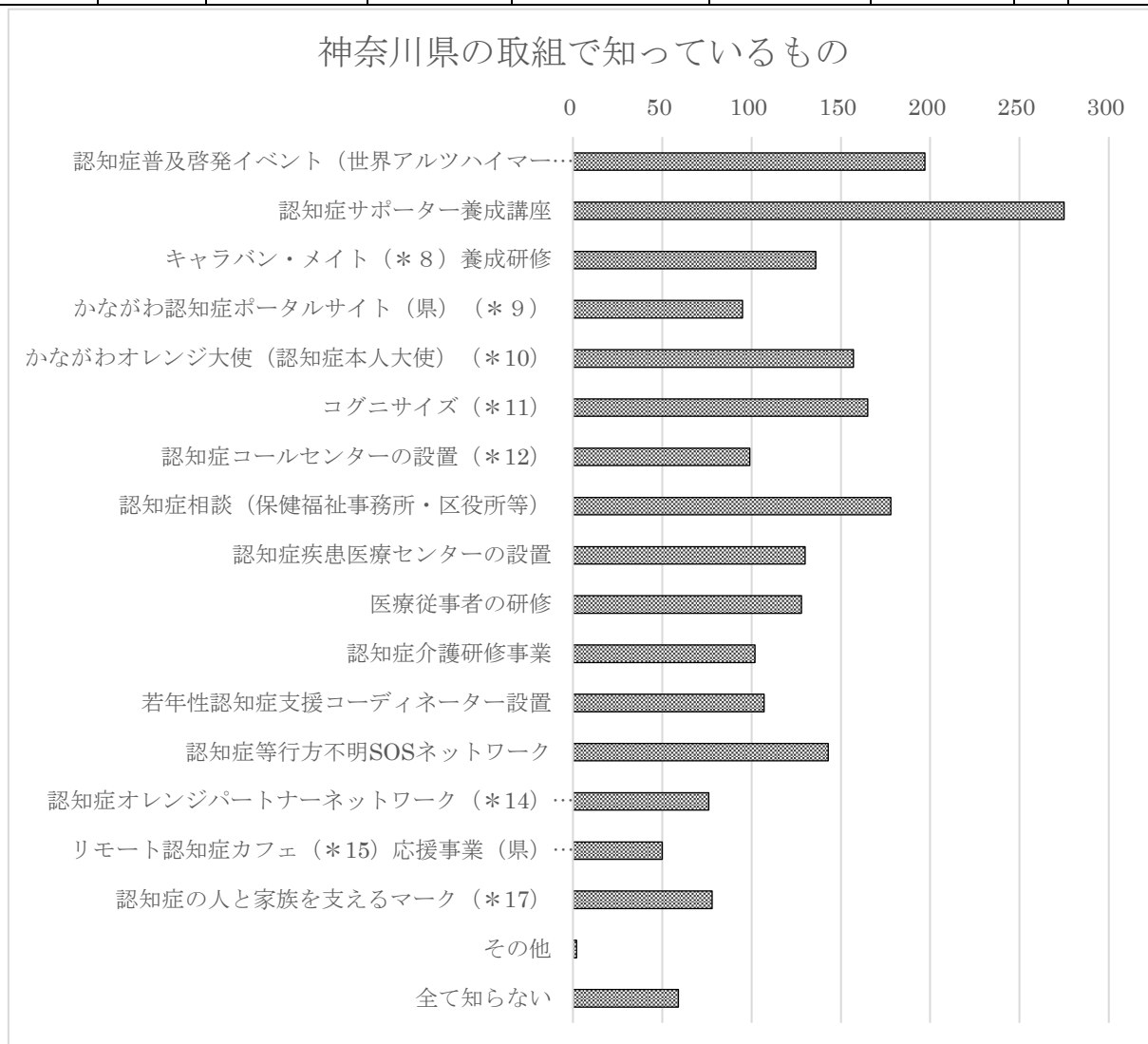
認知症の人と家族を支えるために、日常的は挨拶などの日頃の関係づくり最多であり全回答者の約 8 割が回答した。また困っている様子を見たら声をかける、ご家族の話を聞く等、相談相手になる、相談機関を紹介するも全回答者の半数を超えていた。

その他回答

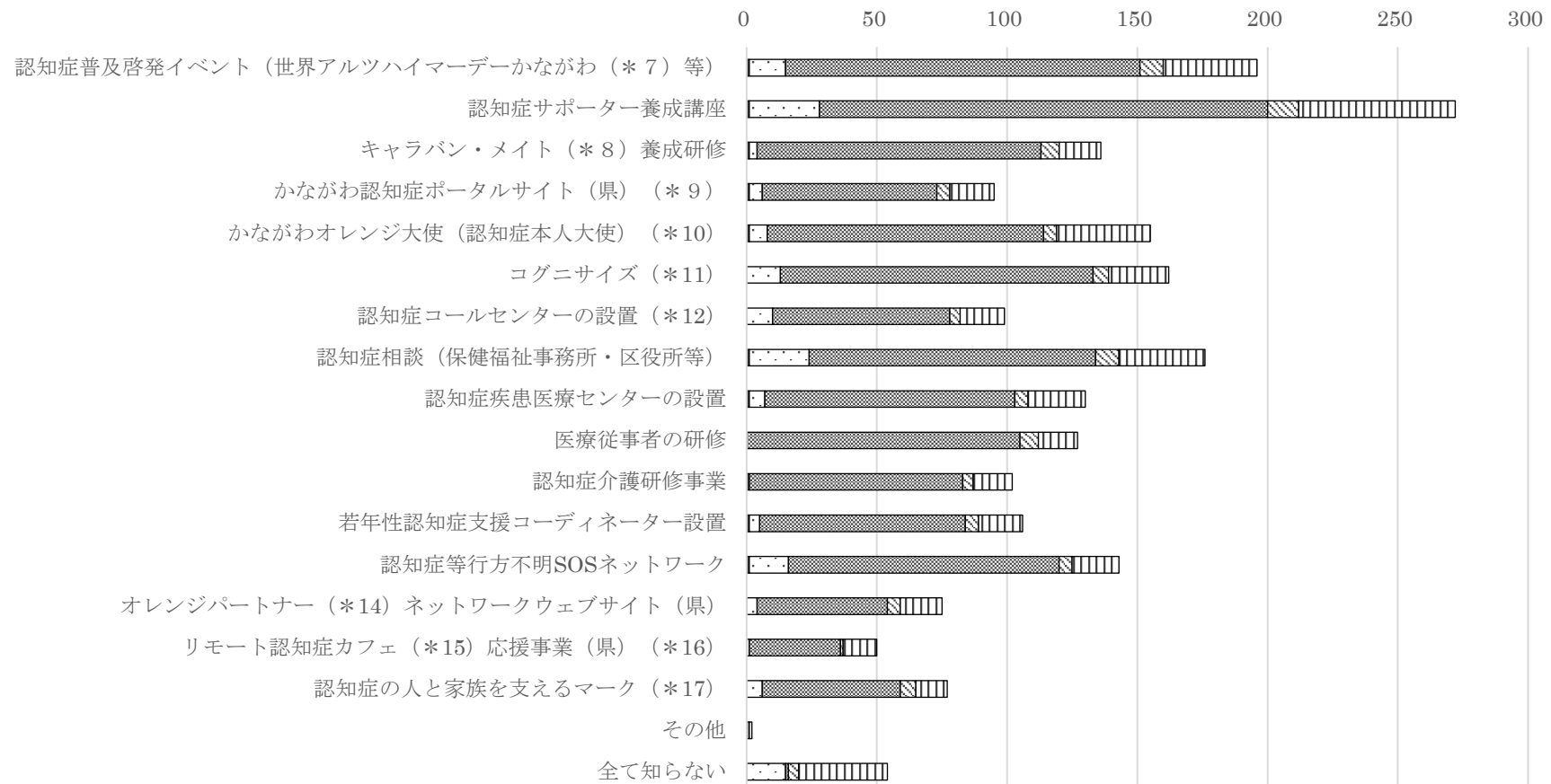
- 認知症カフェなど当事者や家族、関係者が気軽に集まれる場づくり
- 家族会等、当事者の集い
- 最近親族が気になる、と相談を受けても、専門医療機関や関連行政機関に行く事はナンセンス！と考える人が多い。感心のある人は講座を受けるが、本当に受けて欲しい対象者は対象になりにくい。
- 例えば地域カフェなど、だれでも気軽に参加して楽しむ場があればよい。
- 介護者の支援（疲労度や要望に沿った支援）
- 認知症本人が認知症であることを周囲に知られたくない場合の対応
- 公的な機関と繋がる（地域の人との繋がりも大切だと思うが、認知症の人をどうにかしてくれる訳ではないので、やはり公的・専門的な機関に安心して預けられることが一番安心感につながる。
- 介護と仕事の両立を支援する仕組み。肉体的、精神的にかなり疲労し、疲労は蓄積する。
- 地域ケアプラザ
- ケアをもう少し活発にしてほしい
- 地域でのコミュニティ
- オレンジカフェ等
- 問題を抱えた人同士の集まりの場をつくる。
- 若年性認知症高齢者の活動の場、経済的支援など仕組みづくり。企業や小中高大学などの認知症に関する理解や普及啓発の理解促進。地域でちょっとした支援ができる仕組みづくり。8050問題やヤングケアラーなど各分野を越えた関係機関との連携体制構築。
- 仕事やボランティアに参加できる環境を作り発信する、本人が発信できる機会づくり
- ケアマネの問題解決能力には差がありすぎるのであてにならないことが有る。
- 話せる環境づくり
- ステイグマを理解する
- 居場所作り

(4) 神奈川県(指定都市)では認知症施策として下記の取組を行っていますが、ご存知でしたか。

認知症の普及啓発イベント (世界アルツハイマーデー かながわ等)	認知症サポーター養成講座	キャラバン・メイト養成研修	かながわ認知症ポータルサイト (県)	かながわオレンジ大使(認知症本人大使)	コグニサイズ	認知症コールセンター設置	認知症相談(保健福祉事務所・区役所等)	認知症疾患医療センター設置
197	275	136	95	157	165	99	178	130
医療従事者の研修	認知症介護研修事業	若年性認知症支援コーディネーター設置	認知症等行方不明SOSネットワーク	オレンジパートナーネットワークウェブサイト(県)	リモート認知症カフェ応援事業(県)	認知症の人と家族を支えるマーク	その他	すべて知らない
128	102	107	143	76	50	78	2	59



神奈川県の実施で知っているもの

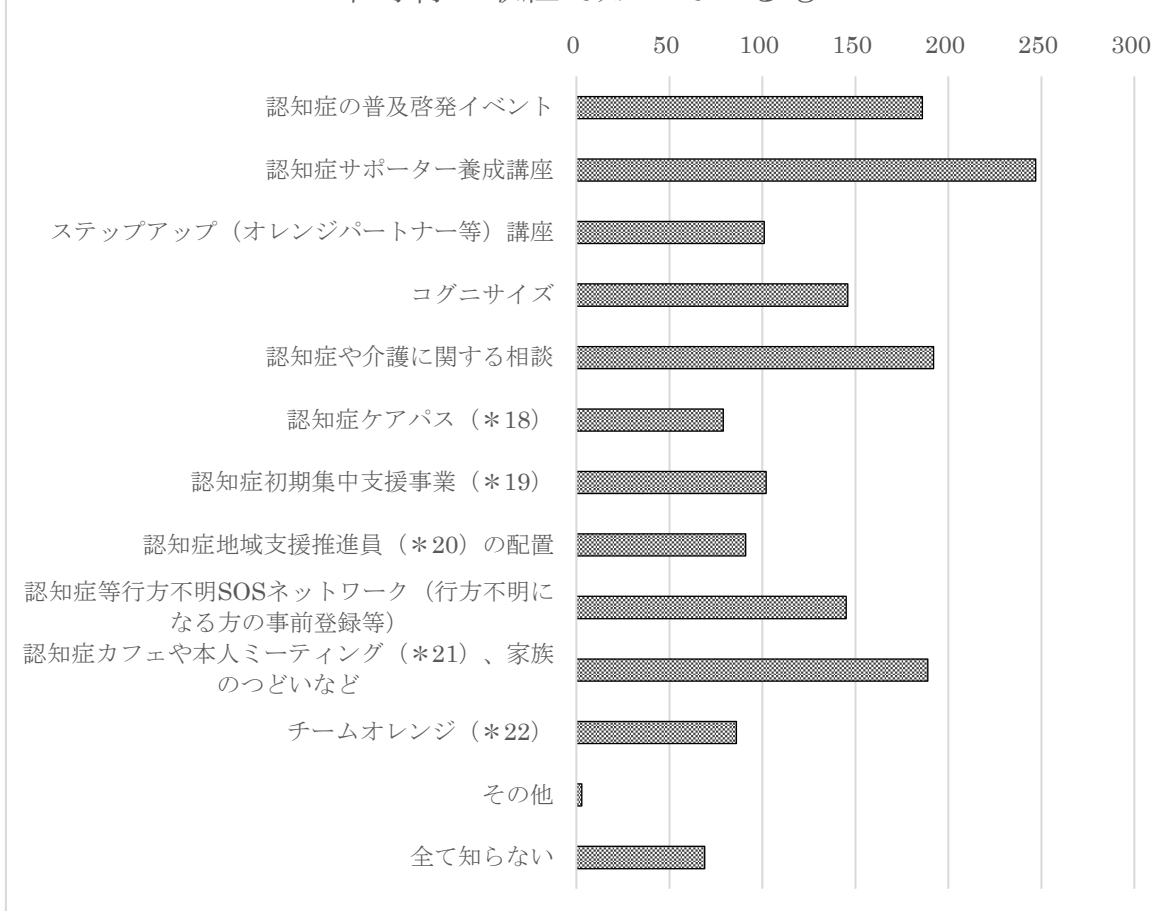


県の施策で最も知られているのは、認知症サポーター養成講座であり、その次に認知症普及イベント、認知症相談（保健福祉事務所・区役所等）、コグニサイズであった。オレンジパートナーネットワークウェブサイト（県）については、低い結果だった。

(5) 市町村で、認知症施策として右記の取組を行っていますが、ご存知でしたか。

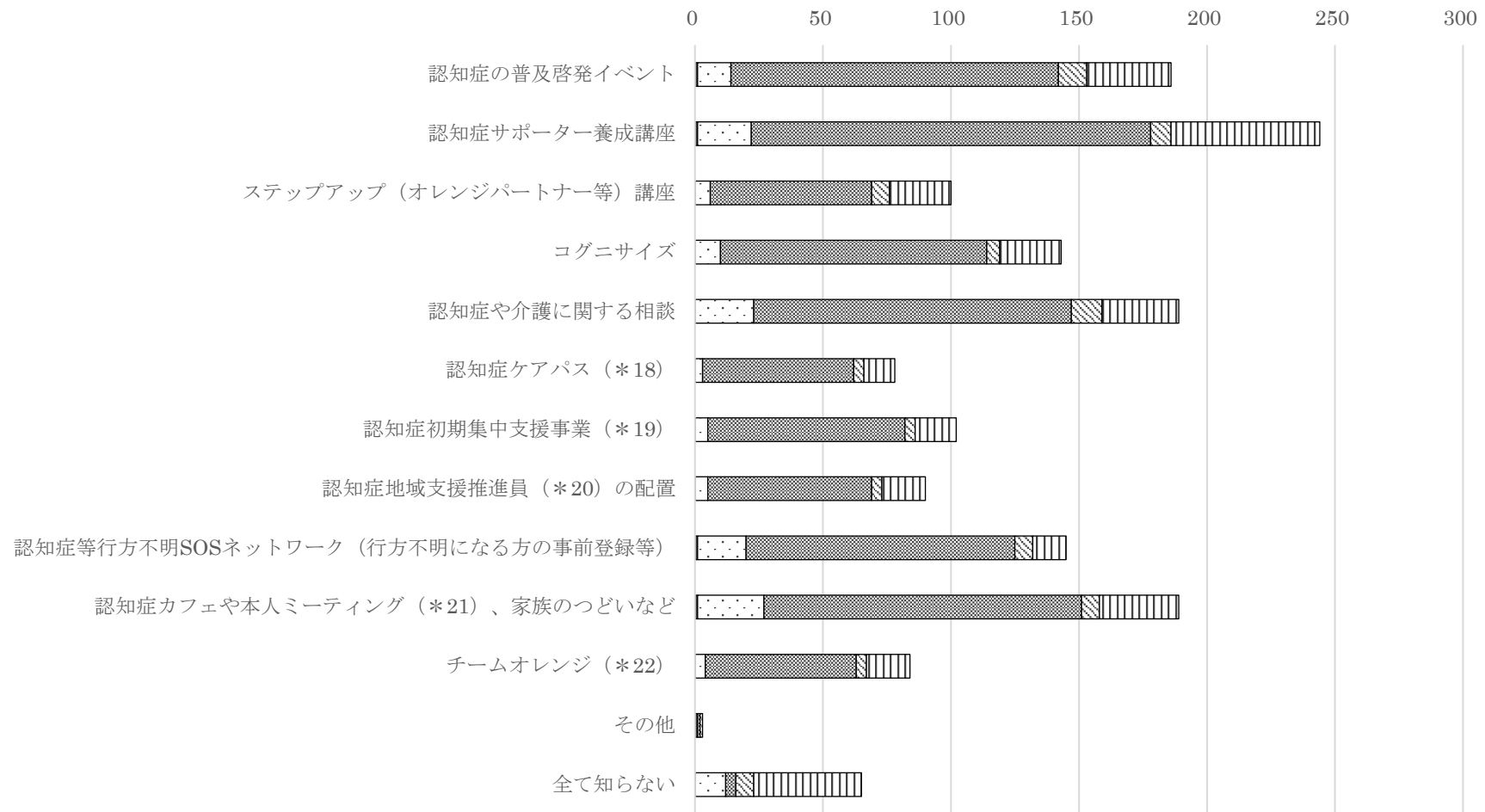
認知症の普及啓発イベント	認知症サポーター養成講座	ステップアップ(オレンジパートナー等)講座	コグニサイズ	認知症や介護に関する相談	認知症ケアパス	認知症初期集中支援事業	認知症地域支援推進員の配置	認知症行方不明SOSネットワーク(行方不明になる方の事前登録等)	認知症カフェや本人ミーティング、家族のつどいなど	チームオレンジ	その他	全て知らない
186	247	101	146	192	79	102	91	145	189	86	3	69

市町村の取組で知っているもの

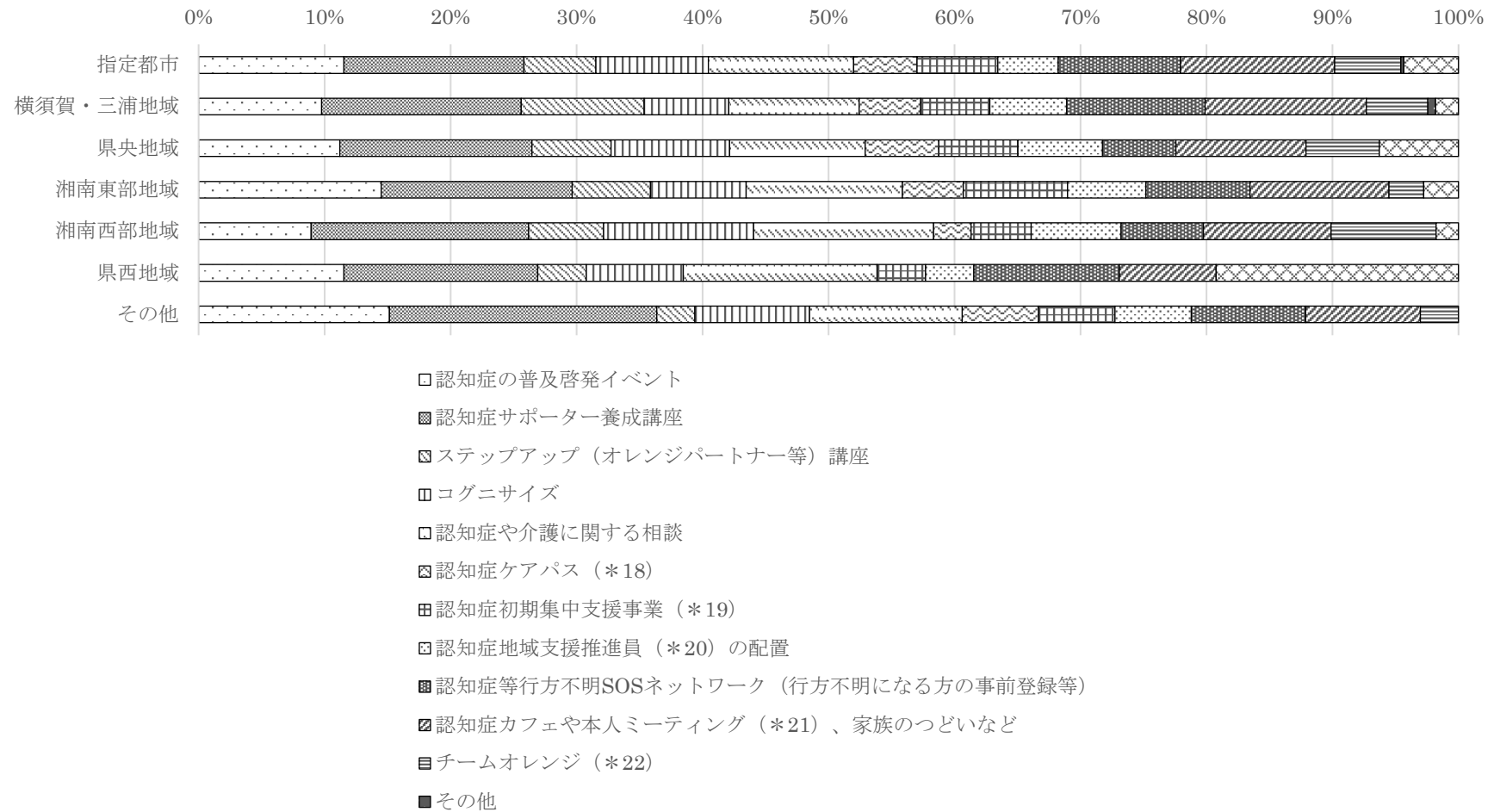


市町村の施策で知られているものは、認知症サポーター養成講座、認知症や介護に関する相談、認知症カフェや本人ミーティング、家族のつどいなどの順で多かった。一方、認知症ケアパス、チームオレンジの認知度は低かった。

市町村の取組で知っているもの（回答者の状況別）



市町村の取組で知っているもの（居住地域別）

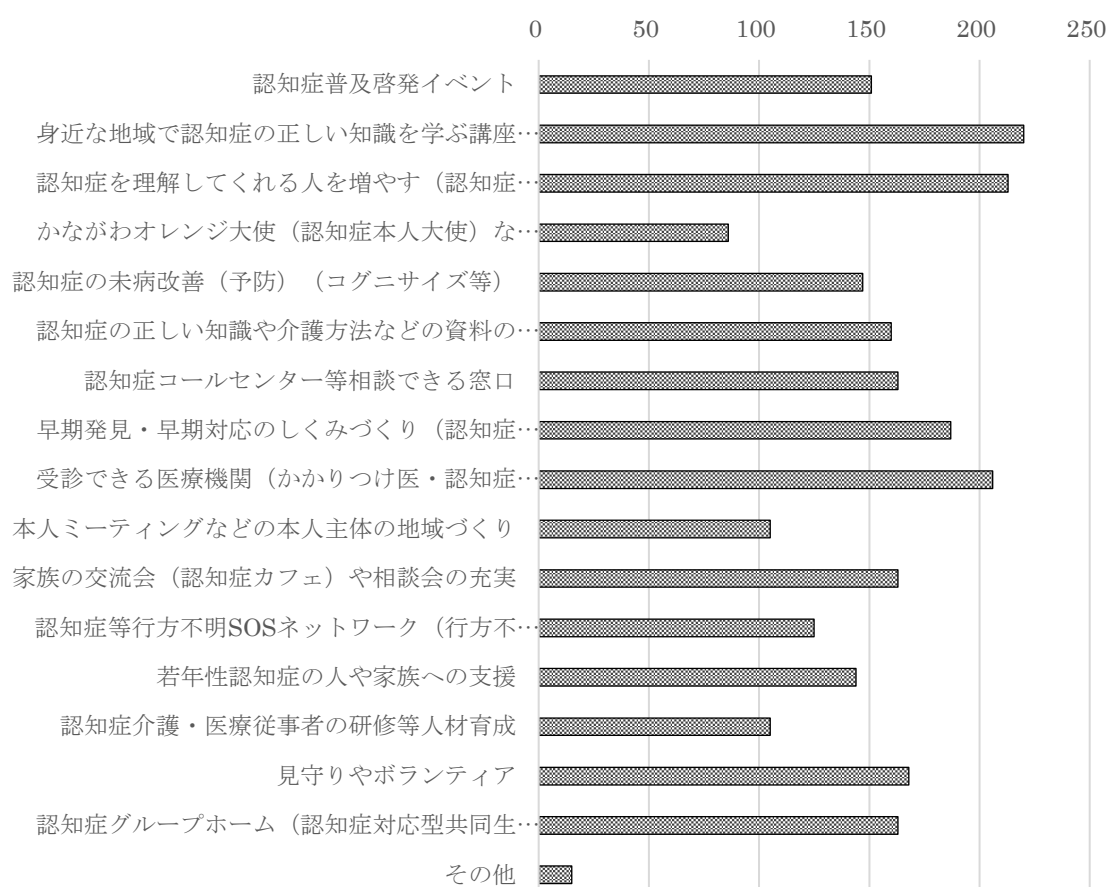


(6) 認知症施策を進めるうえで、今後充実してほしいことは何ですか。(複数回答)

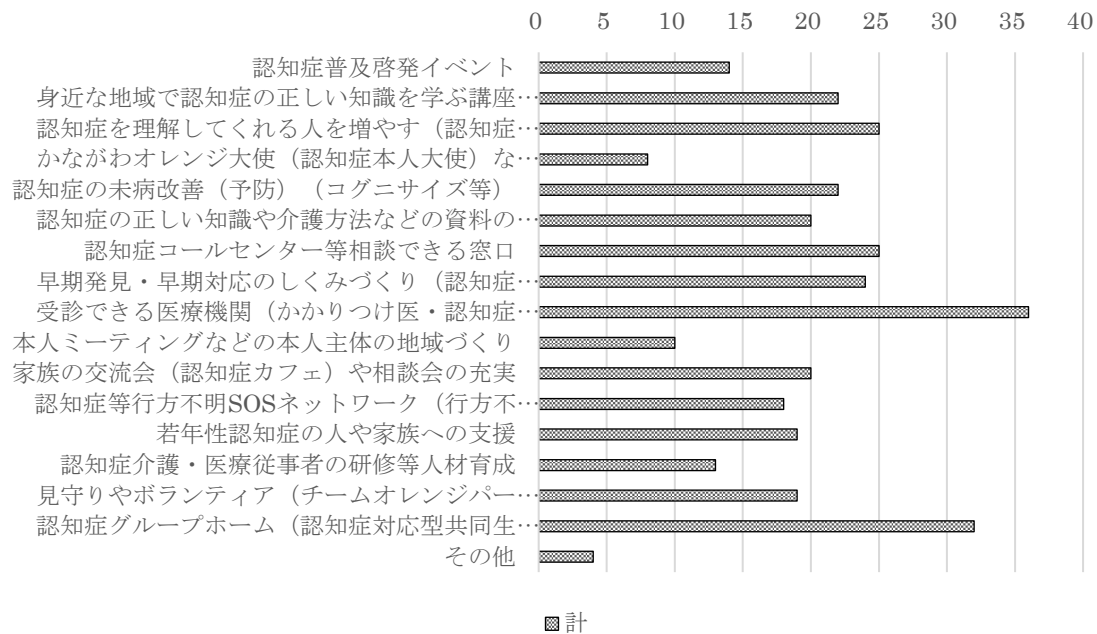
認知症普及啓発イベント	身近な地域で認知症の正しい知識を学ぶ講座の開催	認知症を理解してくれる人を増やす(認知症サポーターやステップアップ講座等)	かながわオレンジ大使(認知症本人大使)などからの本人発信(本人による普及啓発)支援	認知症の未病改善(予防)(コグニサイズ等)	認知症の正しい知識や介護方法などの資料の提供(認知症ケアパス等)	認知症コールセンター等相談できる窓口	早期発見・早期対応のしくみづくり(認知症初期集中支援チーム)
151	220	213	86	147	160	163	187

受診できる医療機関(かかりつけ医・認知症サポート医・認知症疾患医療センター等)の機能強化	本人ミーティングなどの本人主体の地域づくり	家族の交流会(認知症カフェ)や相談会の充実	認知症等行方不明SOSネットワーク(行方不明になる方の事前登録等)	若年性認知症の人や家族への支援	認知症介護・医療従事者の研修等人材育成	見守りやボランティア(チームオレンジパートナーネットワーク等)	認知症グループホーム(認知症対応型共同生活介護)などの介護施設整備	その他
206	105	163	125	144	105	168	163	15

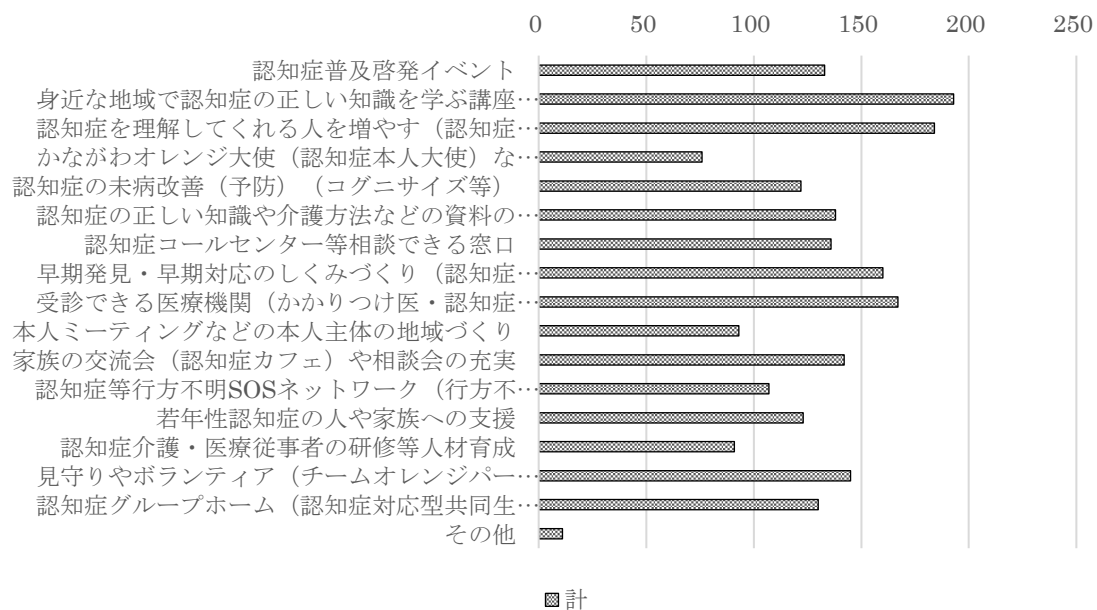
今後充実してほしい施策



今後充実してほしい施策（本人・家族計）



今後充実してほしい施策（本人・家族以外計）



今後充実してほしい施策は、身近な地域で認知症の正しい知識を学ぶ講座の開催、認知症を理解してくれる人を増やす（認知症サポーターやステップアップ講座等）受診できる医療機関（かかりつけ医・認知症サポーター等）の機能強化の順で多かった。本人・家族では、受診できる医療機関の機能強化、認知症グループホーム（認知症対応型共同生活介護）などの介護施設整備、認知症を理解してくれる人を増やす（認知症サポーターやステップアップ講座等）の順で多かった。本人・家族以外では、身近な地域で認知症の正しい知識を学ぶ講座の開催、認知症を理解してくれる人を増やすが多かった。